

「糖尿病を合併する統合失調症患者への糖尿病指導の効果の検討」

○発表者名 社会医療法人 明和会医療福祉センター 渡辺病院 精神科デイケア
介護福祉士 上原知也

1. 問題提起

統合失調症患者は生活習慣病を合併する頻度が高く、一般人口と比較すると平均寿命は10年以上短い。また、認知機能の低下や自発性の低下などにより不規則な生活を送りやすく、余暇及び日常生活における運動量が少ない。徳山は「統合失調症は、生物学的、心理的、社会的因子によって身体疾患の予後が悪くなっている。」¹⁾と述べている。当院の精神科デイケアにも糖尿病を合併している患者が多く利用しており、糖尿病管理について意識の低い患者が多い現状がある。そこで1人の利用者に焦点を当てて糖尿病指導を行うことで、どのような効果が表れるか検証した。

2. 目的

糖尿病指導が統合失調症患者へ与える効果の分析を目的とする。

3. 方法

(1) 研究デザイン：事例研究

(2) 研究対象：A氏 60歳代女性 病名：統合失調症 糖尿病

(3) 研究期間：20XX年 Y月～3か月

(4) データ収集方法・データ分析

① 研究の主旨に同意を得られた対象者へ口頭と文章で内容を説明した。

② 運動療法は週に1回、30～60分実施した。内容は対象者の希望を確認して実施した。また、デイケアの運動プログラム(以下、運動プログラムという)への参加を勧めた。

③ 糖尿病指導は隔週で運動療法前に30分程度実施した。内容は表1に記載のように7回に分けて実施した。

④ 記録用紙からできるようになったことや、嬉しいことなどの心情に関連する言動を抜粋し、その変化の抽象度を上げながら、カテゴリー化して分析した。

⑤ 研究期間中のBMIを週に1回算出した。また、血液検査データ(HbA1c)を記録した。

⑥ 研究開始時のBMIとHbA1cを、研究期間中及び終了後の数値で単純比較し分析した。

(5) 倫理的配慮

本研究は渡辺病院教育委員会の承認後に開始した。対象者に研究の目的を説明し、参加は自由意志に基づき不参加により治療への不利益は生じないことを説明した。また、個人名が特定されないように配慮した。以上のことを口頭と文章で説明し同意を得た。

4. 成果・課題

【結果】

1～7回目の指導内容と結果の詳細を表1に示す。

【考察】

7回の指導の際、各回で得られたカテゴリーについて分析する。

1回目に得られた「理解力不足」では、指導内容を理解していない発言から、間食の回数に変化がなかったと考える。

2回目に得られた「関心の薄さ」では、本人の理解力に合わせて指導を行った。しかし、間食を多く摂取しており運動プログラムへの参加も少なかった。「(状態が)悪いことない。」と話していることから病識の低さがうかがえる。

3回目に得られた「準備期」では、間食の量に変化はなかったが、運動療法や運動プログラムに自発的な参加があった。「(合併症について)なったら怖いな。」と発言があり合併症を身近

に感じたことで生活習慣を見直す動機の高まりに繋がったと考える。

4 回目に得られた「意識の変化」では、どのように食事や間食をしていけばよいか指導を行った。指導中は自身の気を付けていることを話しながら、興味を持って聞いていた。「食事」という身近な指導内容であったことが理解しやすく、興味を引いた理由だと考える。

5 回目に得られた「意欲的期」では、これまでカロリーを気にせず間食していた。そのため、実際に買い物をする店に行き、間食するにはどのような食品が良いか一緒に考えた。食品のカロリーを見て「こんなに高いんだ。」と驚き、低カロリーの食品を選び直すことができていた。このことから、実際の食品を用いて具体的に説明することで食品の選定方法について理解が深まったと考える。

6 回目に得られた「退行期」では「あんまり気にせず食べとるで。」と話し、間食の量が増えていた。A 氏に指導内容について確認すると、前回の指導内容を覚えていないことが分かった。徳山は「統合失調症の患者は、認知機能が低下している為、毎回毎回、何度も何度も伝えないといけない²⁾」と述べている。これにより繰り返しの指導の必要性が分かる。

7 回目に得られた「治療意欲の再構築」では、予定していた指導に加えて食事についての振り返りを行った。「気をつけないけんかったな。」と発言があり、自身の食生活についての振り返りができていた。繰り返し指導をすることで糖尿病管理について治療意欲を再構築することができたと考える。

3 か月間継続的かつ意欲的に取り組むことができたのは、A 氏が希望した運動療法を実施したためと考える。これにより全体的な運動量増加に繋がりと、BMI と HbA1c の数値の改善につながったと考える。

A 氏の一連の経過は時間的には断定できないが、第 1 回～7 回のカテゴリーにより、A 氏の行動は Prochaska と Clemente の行動変容モデルに準じて進んでいたことがうかがえる。

【成果・課題】

今回の研究を通して、本人の希望や理解力に合わせて繰り返し説明をする事で、糖尿病管理についての意欲を維持できるように関わる事が重要だと分かった。今後の課題としてデイケアには糖尿病を合併した利用者が多く利用している。そのため、複数の利用者を対象とできる体制や仕組みを構築することが必要となる。また、デイケアだけでなく在宅でも継続的に支援を受けることができるように多職種で連携し体制を構築することが必要となる。

引用・参考文献

- 1) 徳山 明広：統合失調症と生活習慣病、精神看護 vol.42、P8、2015.
- 2) 徳山 明広：統合失調症と生活習慣病、精神看護 vol.42、P20、2015.
- 3) 永井 優子：正確な知識を得て自分の生活を振り返る、P16-21、精神看護 vol.31、2004.
- 4) 長田 泉美：統合失調症に対する生活指導、P42-45、Schizophrenia Frontier、2010.
- 5) 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 小島亜未 加藤 佳子：行動変容ステージ

http://www-2022.h.kobe-u.ac.jp/sites/default/files/general_page/ikiikisiryoku_3.pdf

閲覧日 令和 3 年 10 月 14 日

表 1 糖尿病指導内容と結果

教育内容	第 1 回指導「糖尿病基礎知識」	第 2 回指導「高齢者、肥満と糖尿病」	第 3 回指導「合併症について」	第 4 回指導「食事療法について」
患者の言動	・ハッピーターン、カルピスを摂取している。 ・昼食後、缶コーヒーを飲んでいる。 ・「(糖尿病について)難しい。よくわからん。」 ・「砂糖は全然食べてないで。」	・スタッフの勧めで運動プログラムへ参加する。 ・デイケア活動室でお菓子を食べている。 ・「(自身の状態が)悪いことない。」 ・「気にせず食べとる。」	・運動プログラムへ自主的に参加できる。 ・売店でスナック菓子を食べている。 ・合併症について「なったら怖いな。」	・運動プログラムへ自主的に参加できる。 ・「甘いもの食べたい時もある。」 ・「お菓子は食べてないで。」 ・「ジュースよりお茶を飲むようにしとるで。」
運動療法の内容	・スタッフの勧めで散歩を実施できた。卓球は拒否なく実施できた。	・散歩を勧めるが「今日は散歩はええわ。」と断ることもあった。卓球は拒否なく実施できた。	・A 氏から散歩を提案があった。卓球は拒否なく実施できた。	・散歩を行い時間いっぱい実施できた。卓球は拒否なく実施できた。
体重/BMI	<体重/BMI> 1 週目 48.4 kg/24.2 2 週目 48.9 kg/24.3	<体重/BMI> 3 週目 49.3 kg/24.6 4 週目 48.1 kg/23.9	<体重/BMI> 5 週目 48.5 kg/24.1 6 週目 47.8 kg/23.7	<体重/BMI> 7 週目 48 kg/23.8 8 週目 48 kg/23.8
HbA1c	<HbA1c> 6.6%			
カテゴリー	理解力不足	関心の薄さ	準備期	意識の変化
教育内容	第 5 回指導「食生活の振り返り」	第 6 回指導「運動療法について」	第 7 回指導「生活の中で運動できるポイント」	
患者の言動	・散歩の際、本人より歩行距離を伸ばす提案があった。 ・「朝はお茶を飲むようにした。」 ・「運動は楽しい。好きだ。」 ・食品の指導について売店に同行した際、食品のカロリーを見て「こんなに高いんだ。」と驚いている。 ・カロリーの低い商品を選び直している。	・他の利用者と一緒に間食している。 ・「寝る前にチキンラーメン食べた。」 ・活動室でジュースを飲んでいる。 ・「あんまり気にせず食べとるで。」 ・今までの指導内容について「あんまり覚えてらんない。」	・再度食事の指導を行うと「(食事や間食について)気を付けないけんかったな。」 ・研究期間中、運動に対して「楽しかったで。」 ・数値の改善を報告すると「よかった。頑張ったかな。」	
運動療法の内容	・散歩と卓球を実施できた。本人のペースに合わせて実施し、散歩の距離が伸びた。	・天候が悪く散歩を実施できない日もあったが、卓球は拒否なく実施できた。	・スタッフの勧めで散歩を実施できる。卓球は拒否なく実施できた。	
体重/BMI	<体重/BMI> 9 週目 48 kg/23.8 10 週目 47.6 kg/23.7	<体重/BMI> 11 週目 47.7 kg/23.7 12 週目 48.4 kg/24.0	<体重/BMI> 13 週目 48.2 kg/23.9 <HbA1c> 6.6%	
HbA1c				
カテゴリー	意欲的期	退行期	治療意欲の再構築	